

重層的支援体制整備事業 の取り組みについて

京田辺市 健康福祉部 社会福祉課

京田辺市の地域福祉をめぐる課題

第4期京田辺市地域福祉計画より抜粋

●市民や団体の地域参画や地域内交流の活性化

若い世代を中心に地域参画ができていない現状の一方で地域での交流や支え合いは欠かすことができないという意識の醸成はみられる。

➡ 活動したい人が活躍できる場づくり、就労や社会参加の機会の提供など、
年齢や属性にとらわれない社会参加支援の仕組みが必要！

●地域福祉のネットワーク構築・関係機関の連携強化

身近な相談窓口や安心して在宅生活が送れるサービスの充実を希望する割合が高い。
また、閉じこもりや社会的孤立を懸念する割合も高い。

➡ **世代を問わず、相互に支え合える仕組みが必要！**

●住民主体の住み良い地域づくり

住み慣れた地域で安心した暮らしの継続のために、災害時の備えや地域の安全の確保、各サービスの充実などが求められている。

➡ **自助共助公助それぞれに生活を支える仕組みが必要！**

福祉支援の現場における課題

制度・サービスで解決できない「はざま」の課題

◇ 制度やサービスの対象でない、支援のつなぎ先がない

支援対象から外れたり、相談があっても制度やサービスが使えず支援が継続されていない

◇ 制度の縦割りで必要な支援が届きにくい

◇ 複雑・複合的な課題

～事例～

- 周辺が大変困っているが、本人に困り感がなく介入できない。
- 発達障がいの疑いなど、確定の診断がなく利用できるサービスがない。
- 問題が複雑化して混乱している。
- 8050問題
- ひきこもり・不登校
- ダブルケア・ヤングケアラー などなど

1つの窓口では
解決しづらい相談が
増えてきている

地域共生社会の実現に向けた取り組み

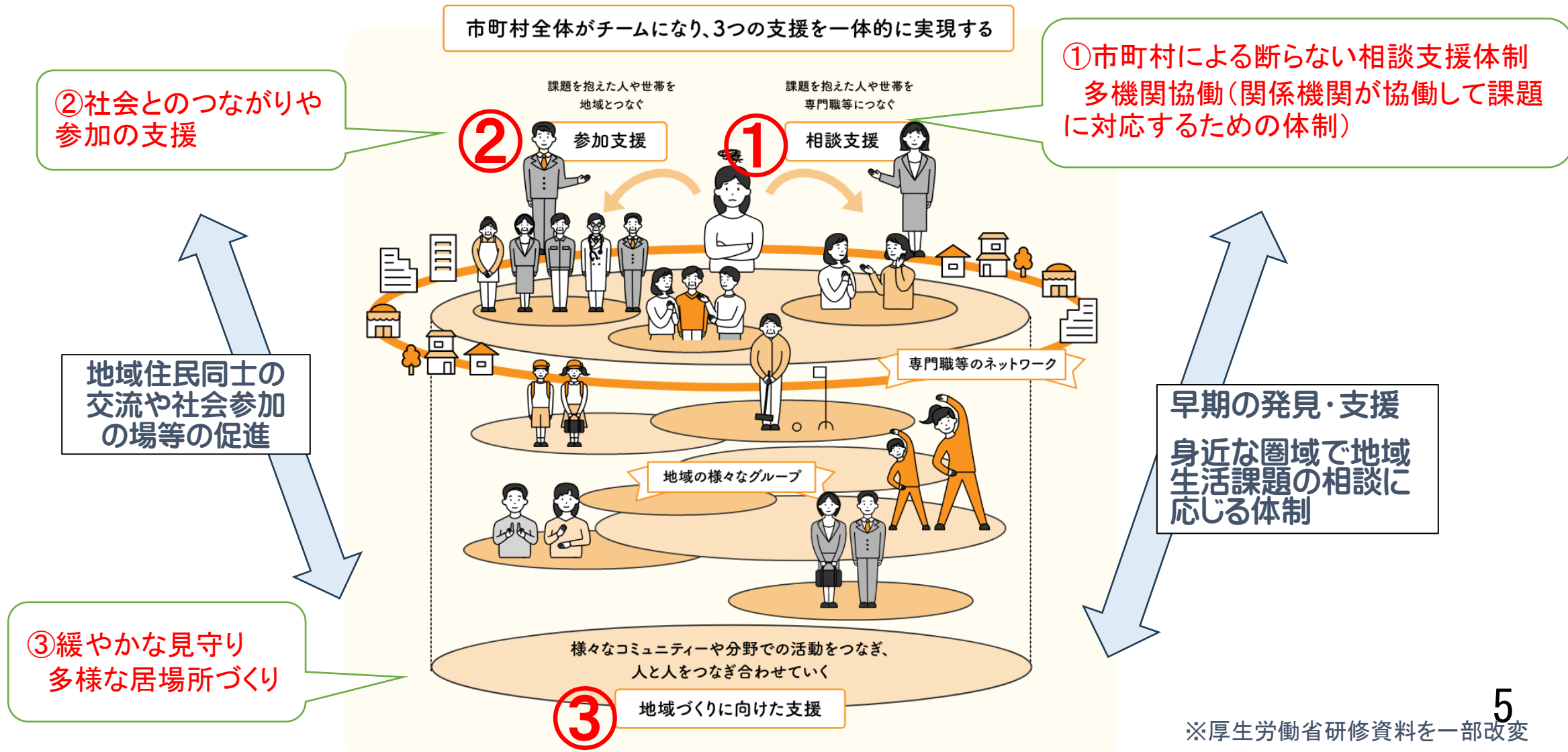
地域共生社会


制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」を越えて多様な主体が参画し、世代や分野を超えて繋がることで、地域をともに創っていく社会。



社会変動により支援ニーズの多様化・複雑化しています。担い手の不足や、地縁、社縁などつながりが脆弱化する中で、人と人、人と社会がつながり支え合う取り組みが生まれやすい環境を整えることが求められています。

重層的支援体制整備事業の3つの柱





「お互いさんの
心と絆ではぐくむ
心豊かなまち 京田辺」

をめざして

令和9年度からの本格実施に向けて始動します。

～京田辺市重層的支援体制整備事業～
京田辺たなごころプロジェクト

①包括的相談支援事業

どの窓口からでも適切な相談機関につながるしくみ

対象者の属性にとらわれない包括的な相談支援

既存の相談窓口を位置付け。⇒「どこでもストップ！」
「ワンストップ窓口」ができるわけでない

単一の相談機関では解決が難しい課題への対応

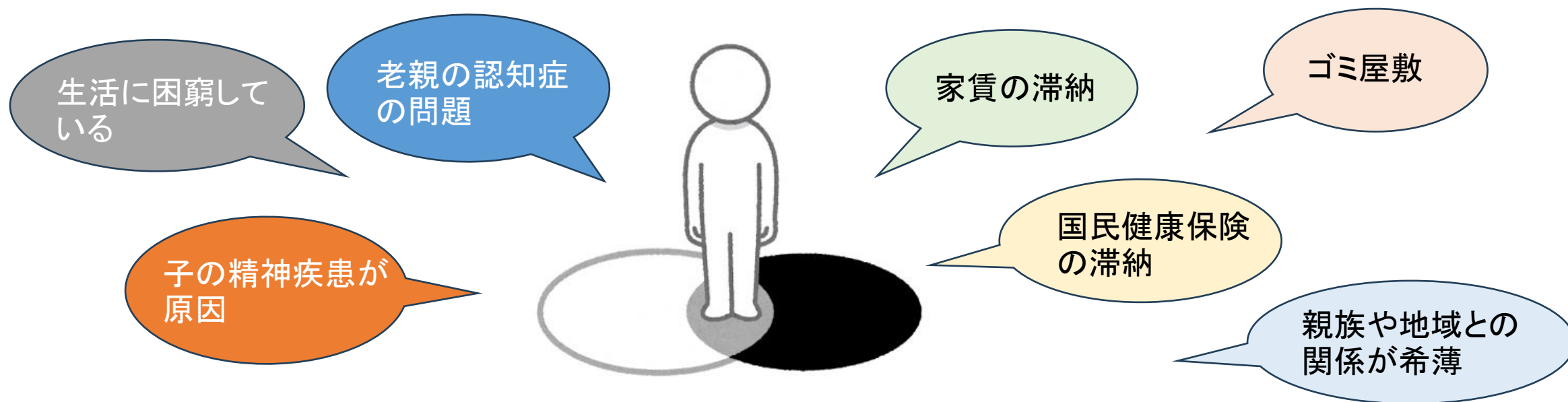
組織の縦割りを越えることで課題解決機能が充実

多機関協働の支援体制の構築

⇒ それぞれでは解決できない課題を協力して解決していくための仕組み（多機関協働）
と話し合う場（重層的支援会議・支援会議）を設置します。

～これまでは～

関係機関がそれぞれの方針で対応し、バラバラにケースを受けとめる。関わる場所が多くなると、何かことが起きる度に情報が錯綜する。今ある問題に対応するだけの『もぐらたたき』の状態に。



全体の支援経過が把握できないため、いつの間にか網の目からこぼれ落ちる。

「あの家はあそこが対応していたんじゃないかっけ？」

～これからは～

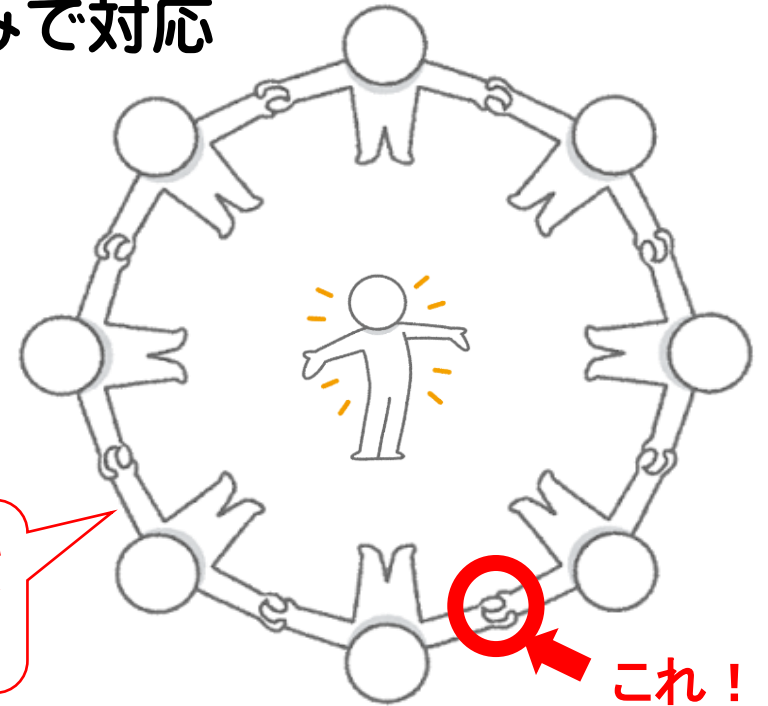
- 基本的に今やっていることは変わりません。それぞれの機関で解決できる場合はそれぞれで解決。つなぎ先が明確な場合は、そちらに繋ぐ。
- 複合課題等で継続的支援等が必要な場合は重層の仕組みで対応

※重層的支援＝相談の投げ込み先ではない。各相談機関での対応終結ではない。

多機関協働の支援体制の構築

⇒ それぞれでは解決できない課題を協力して解決していくための仕組み(多機関協働)と話し合う場(重層的支援会議・支援会議)を設置します。

『どこに相談していいかわからない』ようなケースもまずは一旦受け止める！



キーワードは「連携」・「協働」です。

②地域づくり・参加支援

誰もが地域社会の中で出番があり、役割を発揮できる場をつくるために、「地域×多分野」協働による地域づくりを展開＝地域とともに創る社会の実現。

☆ 分野や領域を超えた「出会い」「つながり」の場。

- ・ 多世代型多様な人が交流できる居場所。
- ・ 企業や農業など、福祉の枠を超えた多分野の出会いの場。

☆ 新たなつながりの中から更なる展開を生む場。

- ・ 動機やアイデアを与えてくれる場。
- ・ 分野・領域を越えたつながりの中から生まれる新たな地域の担い手や社会資源への展開。

点と点をつなぐ場 = プラットフォーム

多様な対話の場や出会いの機会をつくることが必要！

～プラットフォームについて～

プラットフォームの展開により、地域の中の縦割りをなくし、それぞれが役割を発揮しながらつながり(重なり合う部分)を増やす機会の創出する。

▶ 既存の地域づくり事業を活用した事業の展開

～例：絆ネットワーク事業～

- ・ 居場所づくりや見守り活動など地域課題解決のための取組支援
- ・ ふれあいワークショップや地域づくりフォーラムなど地域づくりの支援
- ・ まちづくりサポーター企業の啓発と企業活動と福祉をつなげる研修会

既存の取組を充実・拡大・強化し、つながりが広がるしくみをつくる。

市民参加型 (市民フォーラム)

令和5年度地域づくりフォーラム「地域で支え合うための一歩をふみだそう!」
「I♡京田辺ふれあいワークショップ」を通して、課題の共有や解決に向けた次の一歩について検討を進めてきた地域の取組や実践報告と、これからの地域づくりに向けて広く市民の皆さんと考え進めていく場として開催します。
日・時 令和6年3月16日(土) 13:30～15:30 場・所 京田辺市商工会館 キララホール
対・象 京田辺市民 定・員 140名(定員になり次第締切)
申・込 令和6年3月13日(水) までに電話またはFAXにて申し込み
京田辺市社会福祉協議会 TEL:62-2222 FAX:65-4962

異分野交流型 (企業活動と福祉をつなぐ研修会)

絆ネットワークコーディネーターからのお知らせ
「企業活動と福祉をつなげる」研修会を開催しました。1/24(水)
社協と共同で地域福祉活動に取り組む「まちづくりサポーター企業」はじめ、市内の企業や事業者の方に参加いただき、それぞれに活動されている事例や取り組みなど、顔の見えるネットワークづくりに向けての情報共有を図りました。
参加していただいたみなさんに市内の要配慮者の状況について知っていただき、日頃の業務の中での見守り活動や地域での課題解決に向けたネットワーク活動につながることを期待しています。
参加企業
医療法人社団石鐘会
弁護士法人みそら総合
市位整骨院・鍼灸院
株式会社エディ
株式会社
絆ネットワークニュースVol.2
発行しました。事務局にて配布中。

小規模な交流型(例:テーマ型集い) (焚き火ミーティング・コミュニティーコーピング)



各分野の地域づくり担当同士、
相談支援の担当同士のつながり作り

「こんな取り組みをしています!」
「◇◇を活かして地域に貢献したい」
出会いの場、動機付けの場
「こんなことできないか」
「●●の課題についてアイデアがほしい」

「メリットがあるのか？」

新しい相談機関を設けたり、新しいことを行うことが目的ではありません。
既存の支援機関等の機能や専門性を活かし、チームとして連携を強めながら、市全体の支援体制(チーム京田辺)をつくることが目的です。

- 縦割りの「支援のしづらさ」を改善する。
- 1つの機関や部署が全てを抱え込む必要がなく、支援者の負担を軽減する。
- 連携やつながりによって、早期の発見や対応につながる。 など…

相談の「入口」から地域で安心して暮しつづける「出口」までをつなぐ、
これらの取り組みの総称が「たなごころプロジェクト」です。

令和9年度の実施に向けて、7年度・8年度は目線合わせに重点を置き、一体的な取り組みを実現するための仕組みの検討とプレ実施を予定しています。(移行期間)

重層的支援体制整備事業の一体的な実施に向けて

～京田辺たなごころプロジェクト～

『たなごころ』とは？

手のひら・掌のこと。

手のひらには心が宿るとされ、
手のひらと心には深い結びつきがある。

手に関係するさまざまな言葉・・・

手段、手法、手際、手配、手続、手順など、各分野・各窓口での日々の業務や
取り組みの中にも見られる。



重層的支援体制整備事業の一体的な実施に向けて

～京田辺たなごころプロジェクト～



たなべの心は
たなごころ

それぞれの専門領域には『得手・不得手』があり、一つの相談窓口で解決できない複合的な課題を抱えたケースには、部門・分野の壁を越えて手を取り合い、協力して取り組む必要がある。

考え方や勝手の違いに戸惑うこともあるが、それぞれの立場や役割・機能を理解した上で、あの手この手で、より良い支援を目指していく。手をつないで同じゴールを目指す。

奇跡を起こす魔法の一手は出ないかもしれませんが、うまくいったら、握手や拍手でお互いをねぎらいましょう！